

みなとオアシス Sea 級グルメ北海道大会 in 室蘭を開催しました

室蘭市 港湾部 港湾政策課

令和4年6月25日(土)、26日(日)に、絵鞆臨海公園で「みなとオアシス Sea 級グルメ北海道大会 in 室蘭」を開催しました。

「みなとオアシス室蘭」は、その登録を受けた平成24年以降、運営協議会を組織して構成施設で開催されるイベント情報の発信や応援、協力を主な活動としてきましたが、今年は室蘭港開港150年を記念する主体的な取り組みとして、本大会の開催に至りました。

本大会は、マスク着用や手指消毒、販売エリアと飲食エリアを分けるなどのコロナ感染対策を講じた上で、地元のほか北海道内7港、岩手県宮古港の協力で集結した13種類の Sea 級グルメを「食べる」ことに加えて、海で「遊ぶ」、海を「学ぶ」の3つをコンセプトに実施しました。

「食べる」の部分では、Sea 級グルメ大会初出場となる釧路港と留萌港のみなとオアシスのグルメのほか、地元からは室蘭漁業協同組合が考案した「ほたてチリバーガー」や登別室蘭青年会議所が地域で愛されてきたタコ焼きに似た外観の「帆立の玉焼き」を初出品するなどして、出店者も来場者もイベントを楽しみました。

「遊ぶ」としては、エンルムマリーナ室蘭のクルーザーボートやB&G海洋センターの協力でシーカヤック・ヨットの体験乗船、「学ぶ」としては、会場内の学習ブースで北海道大学室蘭臨海実験所が研究対象の身近な海藻と北海道立総合研究機構栽培水産試験場が栽培漁業等を紹介する展示を行ったほか、北海道開発局室蘭開発建設部の港湾業務艇による港内見学会も行い、近海の花藻や魚介類、室蘭港への理解を深めました。

また、ステージでは Sea 級グルメの PR や吹奏楽演奏、コーラス、和太鼓演奏、よさこい演舞など種々の

イベントが彩を添えたほか、会場に隣接する市立室蘭水族館では本大会にあわせてシーグラスを使ったフォトフレーム作成コーナーを開設するなどの連携もありました。

これらに加えて、前日までは悪天候でしたが当日は一転して奇跡的に晴天となり、室蘭市内ではコロナ後初となる大規模イベントであったことから、2日間で目標を大きく上回る約1万6千人が来場し、室蘭港が大いに賑わいました。

室蘭港は、噴火湾対岸の森町とを結ぶ定期航路が開設された明治5年の開港以来、石炭の積出港から鉄鋼コンビナートへと発展し、また、エネルギー分野では、石油関連企業の立地に続き、近年では国内最大級の PKS 専焼バイオマス発電所も稼働するなど、国内におけるエネルギーの変遷にも対応しながら、地域の産業、経済を支え続けて、開港150年を迎えました。

これからも鉄鋼業を基幹産業に「ものづくりのマチ」として長年培ってきた技術や優秀な人材を活かして、鉄・エネルギーの生産やカーボンニュートラルに貢献する産業港湾としてはもとより、大型クルーズ船の受入や漁業協同組合などの海に関わる市内の機関・団体が力を出し合って行う記念事業を契機に、これからも協力して港の賑わい創出に取り組んでまいります。



オープニング



開会式



会場の様子